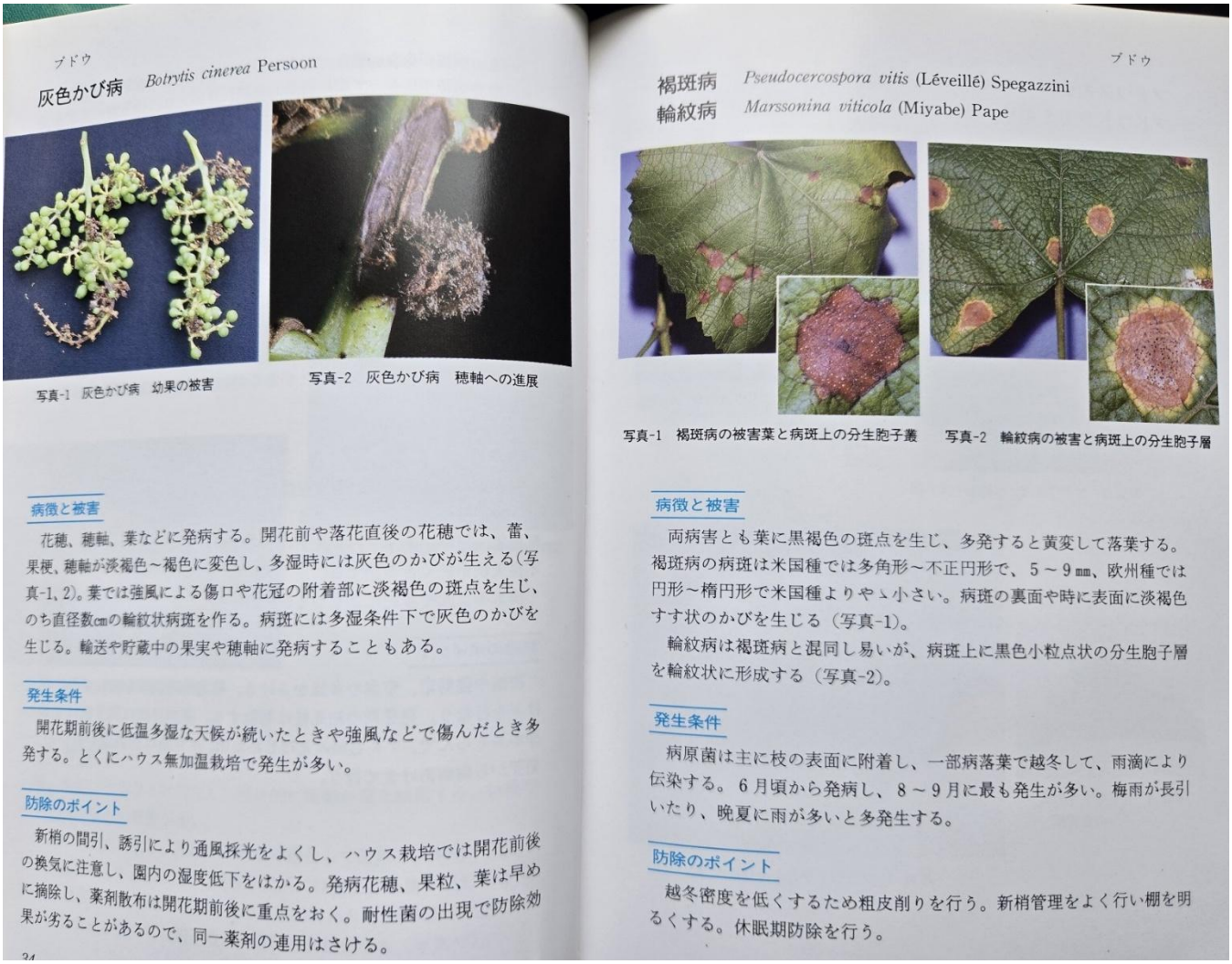
原色図鑑　新潟県の農作物病害虫

[Ⅱ]果樹・花卉・緑化木編

新潟県で発生する果樹・花卉・緑化木の主な病害虫について「見分け方」「被害と発生予察」「防除のポイント」等が手早くわかる。

B６サイズ/183 ページ

内容例



ブドウ

灰色かび病　*Botrytis cinerea* Persoon

写真-1　灰色かび病　幼果の被害

写真-2　灰色かび病　穂軸への進展

病徴と被害

花穂、穂軸、葉などに発病する。開花前や落花直後の花穂では、蕾、果梗、穂軸が淡褐色～褐色に変色し、多湿時には灰色のかびが生える(写真-1、2)。葉では強風による傷口や花冠の附着部に淡褐色の斑点を生じ、のち直径数cmの輪紋状病斑を作る。病斑には多湿条件下で灰色のかびを生じる。輸送や貯蔵中の果実や穂軸に発病することもある。

発生条件

開花期前後に低温多湿な天候が続いたときや強風などで傷んだとき多発する。とくにハウス無加温栽培で発生が多い。

防除のポイント

新梢の間引、誘引により通風採光をよくし、ハウス栽培では開花前後の換気に注意し、園内の湿度低下をはかる。発病花穂、果粒、葉は早めに摘除し、薬剤散布は開花期前後に重点をおく。耐性菌の出現で防除効果が劣ることがあるので、同一薬剤の連用はさける。

34

ブドウ

褐斑病　*Pseudocercospora vitis* (Léveillé) Spegazzini

輪紋病　*Marssonina viticola* (Miyabe) Pape

写真-1　褐斑病の被害葉と病斑上の分生胞子叢

写真-2　輪紋病の被害と病斑上の分生胞子層

病徴と被害

両病害とも葉に黒褐色の斑点を生じ、多発すると黄変して落葉する。褐斑病の病斑は米国種では多角形～不正円形で、５～９㎜、欧州種では円形～楕円形で米国種よりやゝ小さい。病斑の裏面や時に表面に淡褐色すす状のかびを生じる（写真-1)。

輪紋病は褐斑病と混同し易いが、病斑上に黒色小粒点状の分生胞子層を輪紋状に形成する（写真-2)。

発生条件

病原菌は主に枝の表面に附着し、一部病落葉で越冬して、雨滴により伝染する。６月頃から発病し、８～９月に最も発生が多い。梅雨が長引いたり、晩夏に雨が多いと多発生する。

防除のポイント

越冬密度を低くするため粗皮削りを行う。新梢管理をよく行い棚を明るくする。休眠期防除を行う。